

## 東京湾のチチュウカイミドリガニ

池 田 等

Hitoshi IKEDA : Notes on *Carcinus mediterraneus* CZERNIAVSKY  
Found in Tokyo Bay

チチュウカイミドリガニ *Carcinus mediterraneus* CZERNIAVSKY は地中海に分布するワタリガニ科 *Portunidae* のカニである。通常、この科の種類は第4歩脚が泳脚となっているが、本種では指節が扁平で尖っており、ワタリガニ科の中では原始的な形質をもった種類とされている。この属にはもう一種、アメリカ及びヨーロッパに産するミドリガニ *C. maenus* があるが、両種とも日本近海には自然分布していない。

1984年3月、筆者は東京湾においてチチュウカイミドリガニを日本で初めて発見した。この経過については酒井(1986)により概要が述べられている。和名はこの時に付けられ、英名の Mediterranean green crab に由来している。以後、同地点からの採集品を含め、合計5個体を得ることが出来たので報告する。

本文に先立ち、資料を同定していただいた元甲殻類学会会長の故酒井恒博士、助言をいただいた神奈川県立博物館の村岡健作専門学芸員、ならびに投稿の機会を与えていただき、御指導を賜った神奈川県立博物館の中村一恵専門学芸員に感謝申し上げる。

### 産地および生息環境

採集したチチュウカイミドリガニのすべては横浜沖の深度5~10mに仕掛けられたコノシロ底刺網(千葉県竹岡港水揚)に掛かったものである。従って、個体は漁業者により水揚時に壊されたものが多く、完全なものはない。同底刺網には他の甲殻類としてはシヤコ *Oratosquilla oratoria*、イッカクモガニ *Pyromaia tuberculata*、イボイチョウガニ *Cancer gibbosulus*、イシガニ *Charybdis japonica*、棘皮動物ではヒトデ *Asterias amurensis*。貝類としてはアカニシ *Rapana venosa*、ムラサキガイ *Mytilus edulis*、アズマニシキ *Chlamys fauveri*、アサリ *Tapes philippinarum*、トリガイ *Fulvia mutica* の死殻が掛かり、脊索動物ではエボヤ *Styela clava* が多かった。以上の動物の他に廃棄物が多く掛かっており、チチュウカイミ

ドリガニは汚染されたヘドロを含む砂泥地(深度5~10m)に生息していたものと推定される。

### 移動方法についての論議

日本で記録された外国産のカニはイッカクモガニ、アオガニ *Callinectes spidus*、ホクヨウイチョウガニ *Cancer magister*、チチュウカイミドリガニの4種がある。帰化動物として有名なイッカクモガニ(カリフォルニアからパナマ原産)と1979年に釧路で1個体採集された(阿部, 1981)ホクヨウイチョウガニ(カリフォルニアからアラスカに分布する)を除き、アオガニとチチュウカイミドリガニはそれぞれア

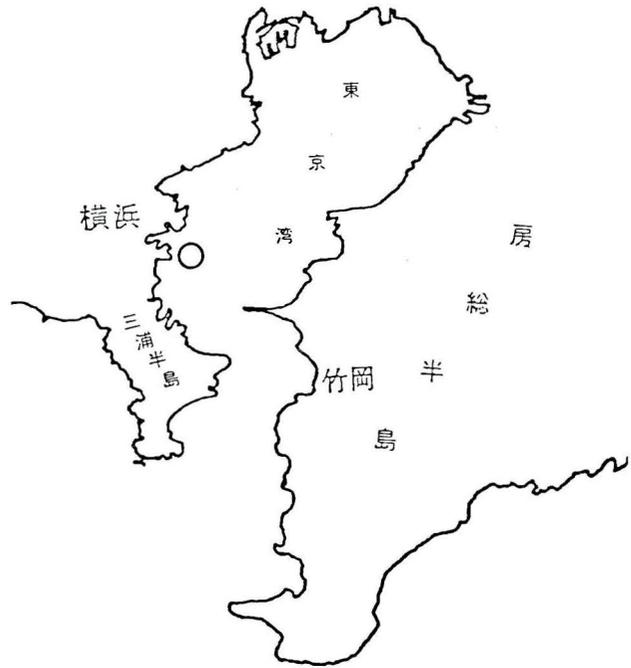


図1 チチュウカイミドリガニ採集地点

表1 チチュウカイミドリガニの測定値

個体番号	性別	甲長(mm)	甲幅(mm)	採集年月日	備考
No.1	♀	32.1	39.4	1984年3月10日	両鉗脚なしの抱卵個体
No.2	♀	35.1	44.0	1984年5月30日	両鉗脚両歩脚なし
No.3	♂	51.0	66.6	//	両鉗脚なし
No.4	♂	—	—	1985年7月18日	破損ひどく測定不能
No.5	♀	48.5	61.3	//	左鉗脚及び腹部なし

※個体番号No.1～No.3は酒井(1986)が報告したもの。

メリカ大西洋, 地中海を原産地としているので, その移動方法は簡単には論じられない。

アオガニは静岡県浜名湖(酒井, 1976)と大阪湾(有山, 1985)から報告があり, 酒井(1976)は潜水艦や船のバラスト・タンクに幼生か稚ガニが混入して運ばれた可能性を述べている。

又, チチュウカイミドリガニに関して酒井(1986)は大西洋や地中海の海産物の冷凍品に混じって入ってきたのではないかという説と大型船のバラスト・タンクに稚ガニが混入して運ばれ, 移動した方法をあげている。本種が船で日本へ来る経路として, ひとつは大西洋, 太平洋を越えて来る場合。他方はスエズ運河を通り, 紅海, インド洋, 太平洋を経て来る経路があげられるが, 直接, 地中海から運ばれて来ることは困難であろう。日本に近い東南アジアあたりにすでに繁殖した所があり, そこを経由して, 再び船で運ばれた可能性も考えられる。あるいは, シーフード用としてヨーロッパから生かしたまま運ばれたムラサキガイやカキに稚ガニが混じり, 何らかの原因で東京湾に逃げ込んだものであろうか。

いずれにしても1985年7月18日の採集以降は, 筆者は東京湾各地を調査したにもかかわらず, チチュウカイミドリガニの記録はない。同年8月の新聞で「横浜に磯の生物が這い上った」という記事の写真にも本種が写っており(酒井, 1986), 当時は相当数繁殖していたことが伺われる。抱卵個体も採集されていることから, 現在は潜伏期であり, 将来, 帰化動物としてとりあげられる日が近いかもしれない。それとも一時

的に侵入しただけなのであろうか。今後, 綿密な調査が必要である。

#### 文 献

- 阿部晃治, 1981. 日本初記録の *Cancer magistter* DANA ホクヨウイチョウガニ(新称). 甲殻類の研究, (11): 13-16.
- 有山啓之, 1985. 大阪湾でとれたアオガニ *Callinectes sapidus* RATHBUN について. 南紀生物, 27 (1): 52.
- 酒井 恒, 1971. 日本産甲殻類に関する話題Ⅳ. 甲殻類の研究, (4, 5): 138-150.
- , 1976. 日本産蟹類. 講談社, 東京.
- , 1976. 日本産甲殻類に関する話題Ⅵ. 甲殻類の研究, (7): 29-40, 1 図版.
- , 1986. 珍奇なる日本産蟹類の属と種について. 甲殻類の研究, (15): 1-5. 3 図版.

#### 付 記

酒井(1986)の「珍奇なる日本産蟹類属と種について」(甲殻類の研究, (15): 3)に次の通り訂正すべき点があるので付け加える。

18行目の1959年, 18から19行目の1959年10月とあるのは, 正しくはそれぞれ1984年, 1984年3月である。19から20行目の千葉県浦安海岸から地曳網によって採集されたとあるのは, 千葉県竹岡海岸から底刺網によって採集されたと訂正する。21行目の雄2個体とあるのは雌雄の誤りである。

(葉山しおさい博物館)

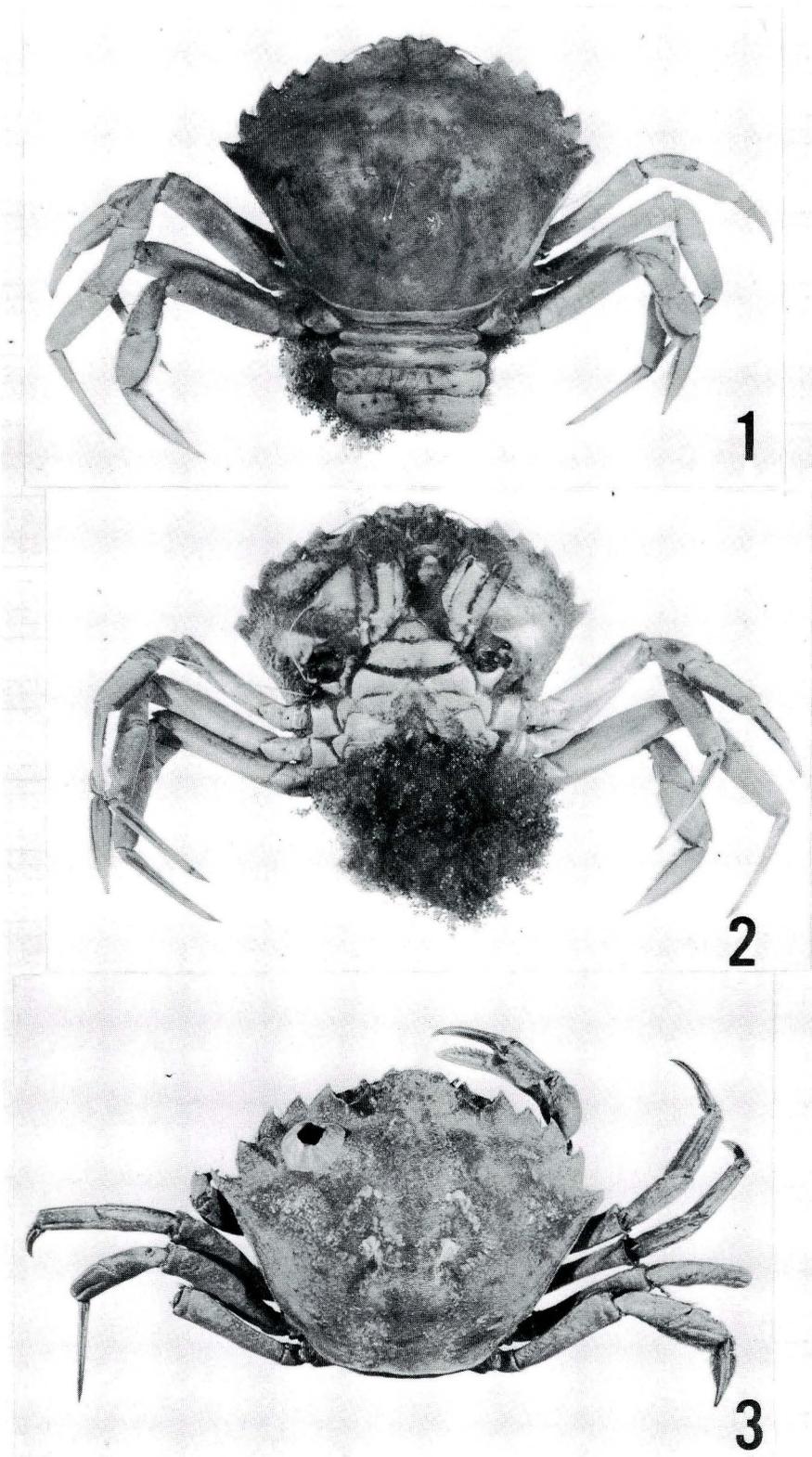


図2 チチュウカイミドリガニ *Carcinus mediterraneus* CZERNIAVSKY  
1: No.1個体, 2: 同個体の腹面, 3: No.5個体 (個体番号は表1に対応)